



冬のウォークアブルシティ推進の取組

札幌市長 秋元 克広

SAPP
RO

札幌市の概況

- 広域図(北海道) -



面積 1,121km²
市域の6割が森林
人口 1,968,326人(2024年11月1日)
気温 平年10.0
最高34.3、最低-14.9

(2020年)

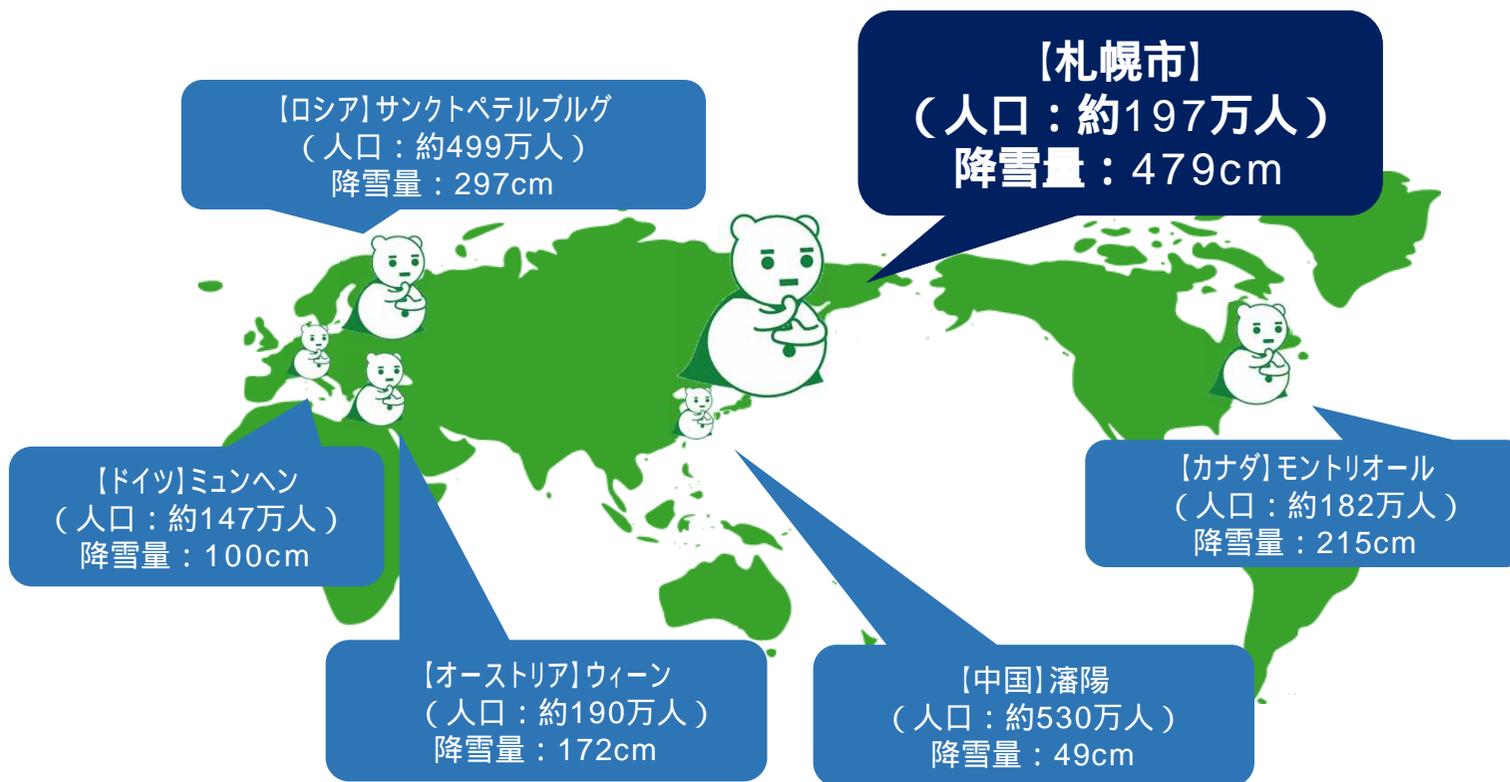
年間降雪量 平年479cm

- 拡大図(札幌市) -



札幌市の厳しい気候条件

- 年間約5mの雪が降る人口100万人以上の都市は世界で札幌市のみ
- 市民の冬期外出率は秋期と比較して約16%減少し、健康面においても大きな課題に



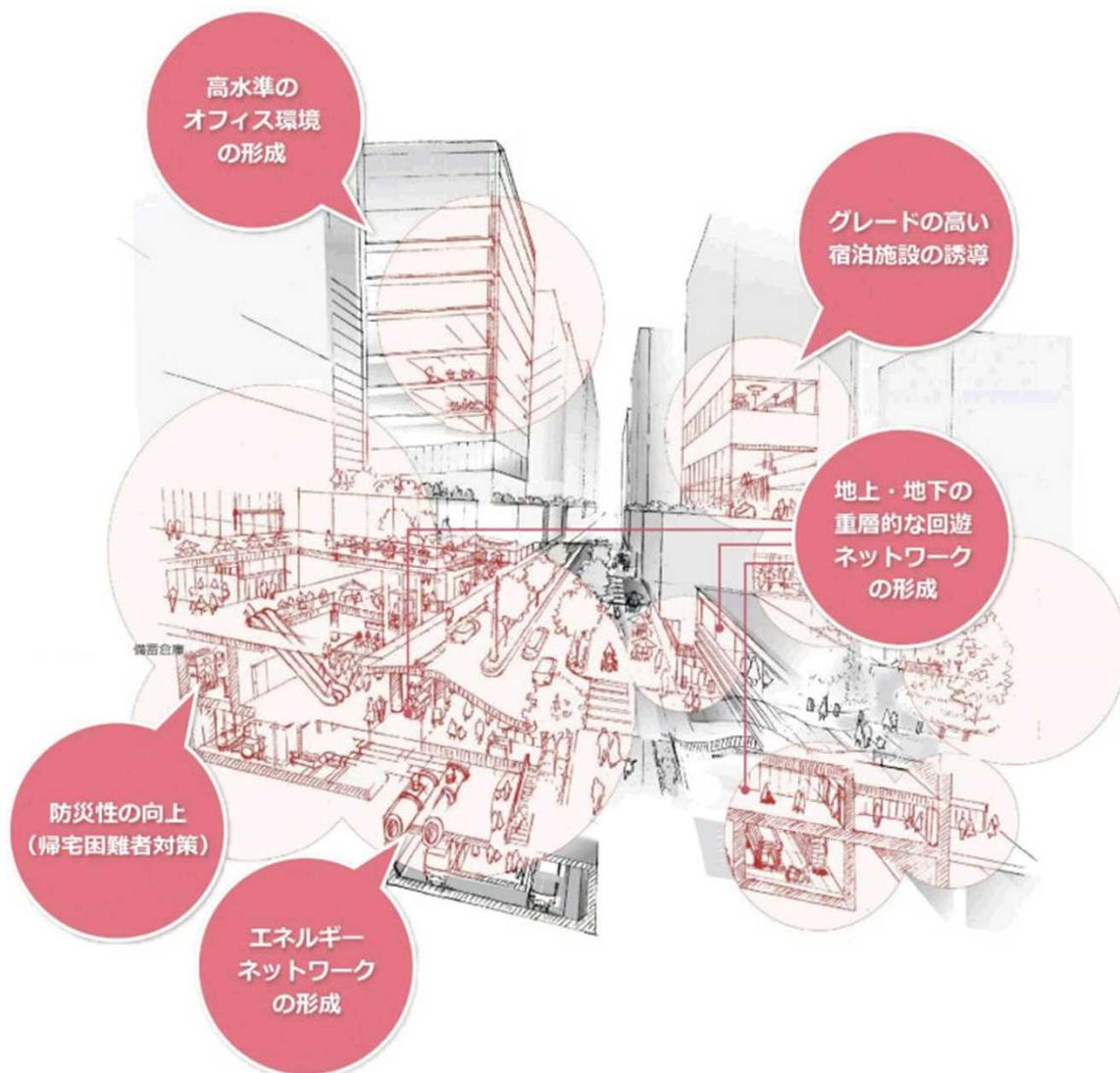
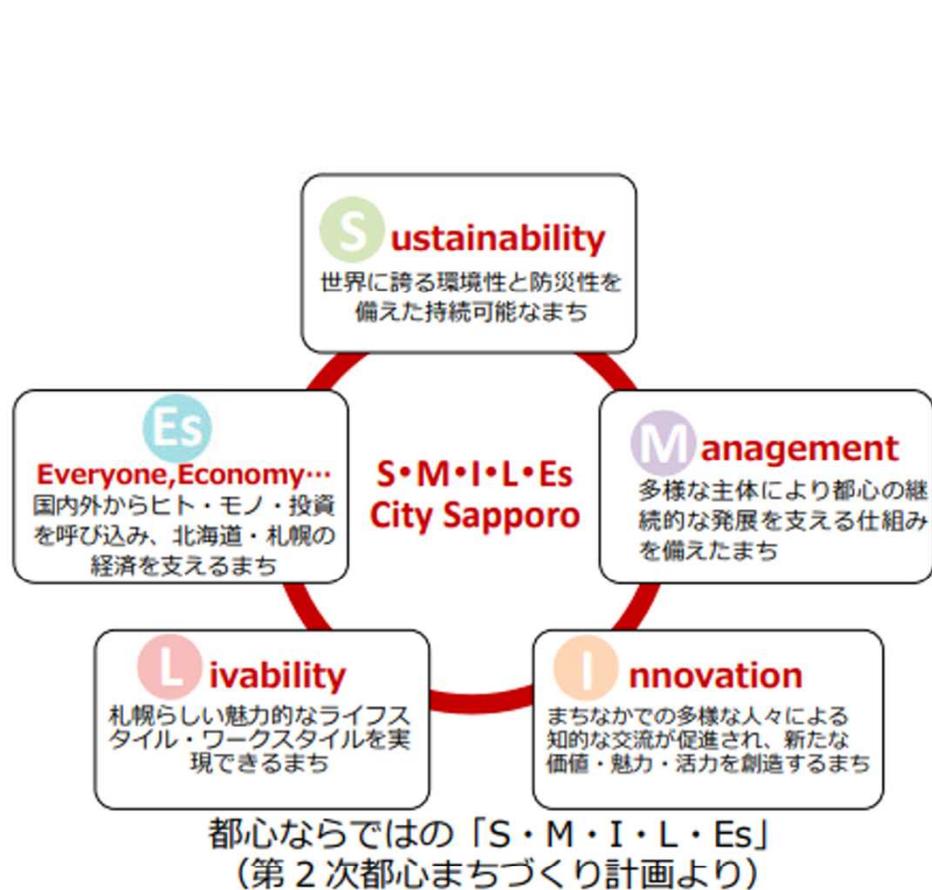
- 除雪により道幅が狭くなった道路 -



- 圧雪によりザクザク路面化した道路 -

札幌市の降雪量は、気象台（札幌）の平年値
世界各都市の降雪量は、昭和63年の調査値
人口は総務省統計局「世界の統計 2022」より

- 都市計画マスタープランに掲げる都市づくりの理念「S・M・I・L・Es」に沿った取組を誘導
- 「質の高いオープンスペース」や「地上・地下の重層的な回遊ネットワーク」などを推進



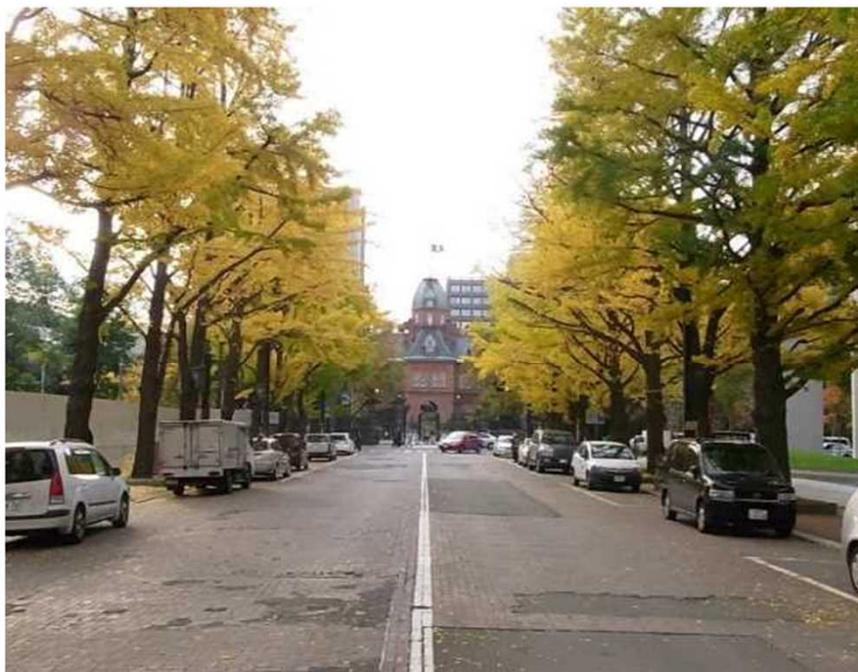
都心に関連する各種計画の目標実現に資する取組の例

※出典「都心における開発誘導方針(札幌市)」:

https://www.city.sapporo.jp/keikaku/documents/yuudouhoushin_annai_2407.pdf

都心部における事例「北3条広場」

現場写真(整備前後)



- 整備前(道路空間) -

- 整備後(広場空間) -

活用事例



- さっぽろ八月祭 -



- 3×3 フェスティバル -



- SMILE RINK SAPPORO -

都心部における事例「札幌駅前通地下歩行空間」



- 札幌駅前通地下歩行空間 -



- イベント活用 -



- 沿道ビル接続 -

- 地下歩行ネットワーク現況図 -

都心部における事例「COCONO SUSUKINO」



- ススキノエリアの中心部にCOCONO SUSUKINOが2023年9月開業
- 冬でも安全に公共交通が利用できるように誰でも利用可能なバス待合空間を整備



- COCONO SUSUKINO(複合商業施設) - - 再開発ビル内に整備したバス待合空間 -

- 2022年に札幌市の総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定
- 重要施策の一つとして「ウォークブルシティの推進」を掲げている



目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

分野横断的に取り組む施策（プロジェクト）の設定

ユニバーサル
(共生)
プロジェクト

ウェルネス
(健康)
プロジェクト

スマート
(快適・先端)
プロジェクト1
プロジェクト2

人口減少緩和
プロジェクト

プロジェクト3本柱の1つに【ウォークブルシティの推進】
「居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留したくなる空間の形成に向けて、都心・地域交流拠点・住宅市街地のそれぞれの特性を生かした空間の整備を進めます。」

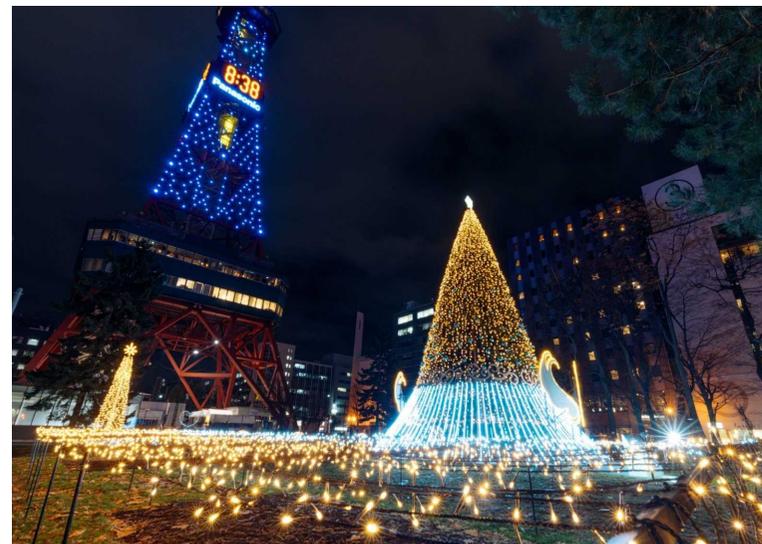
2025年度末に「札幌市ウォークブルビジョン」を策定予定

雪を活用したウォーカブルな取組事例

- 雪に映えるイルミネーションやスノーキャンドル等の仕掛けにより、歩きたくなる屋外空間を創出
- 企業、行政、地域住民など、様々な主体による官民協働まちづくりとしても重要性を再認識



- 札幌ホワイトイルミネーション(札幌駅前通) -



- 札幌ホワイトイルミネーション(大通公園) -



- スノーライト in 宮の沢 -



- 冬の雪灯り(定山溪) -

公共空間における雪を活用した観光コンテンツ

- 国内外の観光客が冬の札幌を体験できる「さっぽろ雪まつり」には毎年200万人以上が来場
- 昨冬には「札幌国際芸術祭2024」も開催され、アートや新たな自動運転モビリティも登場した



- さっぽろ雪まつり大雪像 -



- すずきの氷彫刻コンクール -



- エネス(札幌国際芸術祭2024) -



- GACHA(札幌国際芸術祭2024) -



誰もが自然と歩きたくなる冬のウォークブルシティを目指して

